

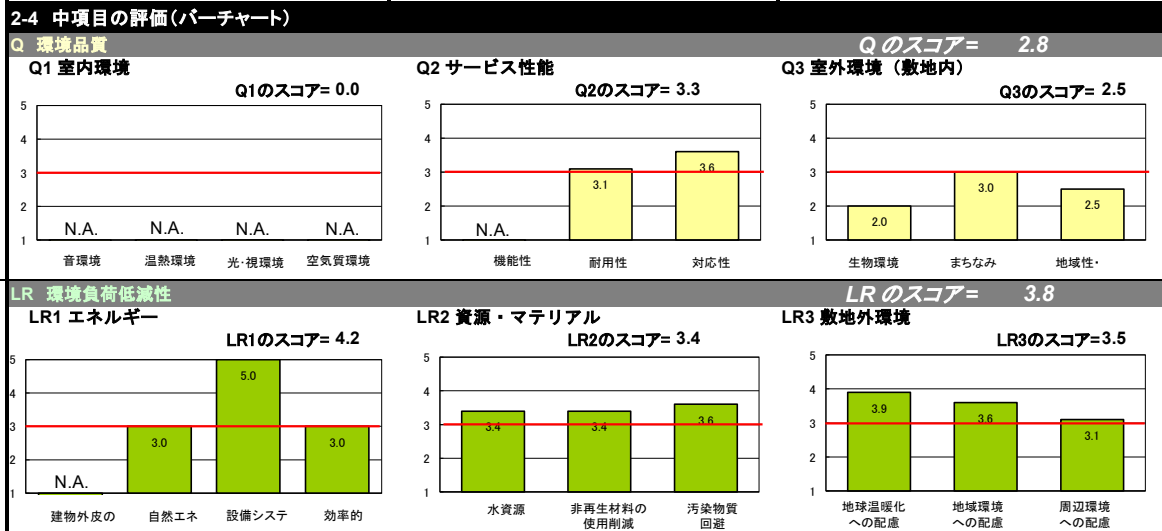
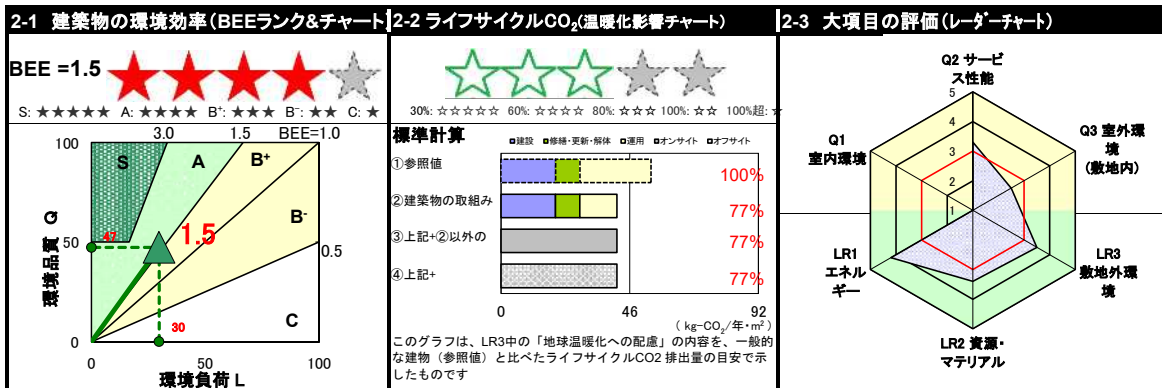
CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)カリツー安城里町物流センター	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県安城市里町日吉8番1ほか20筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、22条区域	平均居住人員	139 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,220 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年6月 予定	評価の実施日	2025年5月27日
敷地面積	23,296 m ²	作成者	塚本 光郁
建築面積	13,201 m ²	確認日	2025年5月27日
延床面積	26,180 m ²	確認者	堀川 純一



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.9	2.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.3	1.0
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	28.1 %
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	0.0 %
	〈外装材に使用した地域性のある材料〉
	なし
	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉
	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)カリツー安城里町物流センター

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		独自基準	重点項目							評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質																2.8
Q1 室内環境																-
1 音環境																-
1.1 室内騒音レベル										3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音										-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能										-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能										-	-	-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										-	-	-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										-	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音										-	-	-	-	-	-	-
2 温熱環境										-	-	-	-	-	-	-
2.1 室温制御										-	-	-	-	-	-	-
1 室温										3.0	-	-	-	-	-	-
2 外皮性能										3.0	-	-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性										3.0	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御										3.0	-	-	-	-	-	-
2.3 空調方式										3.0	-	-	-	-	-	-
3 光・視環境										-	-	-	-	-	-	-
3.1 昼光利用										-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率										3.0	-	-	-	-	-	-
2 方位別開口										3.0	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備										3.0	-	-	3.0	-	-	-
3.2 グレア対策										-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御										5.0	-	-	-	-	-	-
3.3 照度										3.0	-	-	-	-	-	-
3.4 照明制御										3.0	-	-	-	-	-	-
4 空気質環境										-	-	-	-	-	-	-
4.1 発生源対策										-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質										3.0	-	-	-	-	-	-
4.2 換気										-	-	-	-	-	-	-
1 換気量										3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然換気性能										3.0	-	-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮										3.0	-	-	-	-	-	-
4.3 運用管理										-	-	-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視										3.0	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御										3.0	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能										-	-	0.43	-	-	-	3.3
1 機能性										-	-	-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ										-	-	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性										3.0	-	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応										3.0	-	-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画		独自								3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性										-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)										3.0	-	-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース										3.0	-	-	-	-	-	-
3 内装計画										3.0	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理										-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計										3.0	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保										-	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性										0.5	3.1	0.52	-	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振										0.4	3.0	0.48	-	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										3.0	3.0	0.80	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能										3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数										0.3	3.3	0.33	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数										-	3.0	0.23	-	-	-	-
2 外壁仕上材の補修必要間隔										-	3.0	0.23	-	-	-	-
3 主要内装仕上材の更新必要間隔										-	3.0	0.09	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										-	3.0	0.08	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										-	5.0	0.15	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔										-	3.0	0.23	-	-	-	-
2.4 信頼性										0.1	3.0	0.19	-	-	-	-
1 空調・換気設備										3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備										3.0	2.0	0.20	-	-	-	-
3 電気設備										3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法										3.0	4.0	0.20	-	-	-	-
5 通信・情報設備										3.0	3.0	0.20	-	-	-	-

評価内容: 消火配管 C、給水配管 B、排水配管 B

耐震クラスAの支持方法。支持方法は「建築設備耐震設計施工指針(2014年度版)日本建築センター」による。

3 対応性・更新性				0.4	3.6	0.48	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		階高7.4m		-	5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率=0.055		3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②			-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.57	-	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出	独自③			-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー				-	-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.52		3.0	5.0	0.63	-	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.30	-	-	-	3.4
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水型混合水栓、節水型便器を設置		3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.4	0.63	-	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-		-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	再生クラッシュラン・砂利事業		3.0	3.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	OAフロアを採用		3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ウレタンフォーム(ノンフロン品)を採用		-	5.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	-	0.30	-	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率77%		-	3.9	0.33	-	-	-	3.9
2 地域環境への配慮				0.3	3.6	0.33	-	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止		燃焼機器設置なし。		-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自			-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自	駐輪場24台確保、トラック駐車場・乗用車駐車場をそれぞれ確保		-	5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自			-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動	独自			-	-	-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	3.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		周辺環境に配慮し、適切な照明計画を行った。		-	4.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE 建築(新築)2016年版+あいち版手引き

【仮称】カリツー安城里町物流センター

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	3.3	
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22		
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.21		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19		
③ 敷地内の緑化					2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:28.1%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)カリツー安城里町物流センター

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。
Q1 室内環境	※工場用途のため対象外
Q2 サービス性能	ゆとりある階高、荷重、天井高とした。
Q3 室外環境(敷地内)	植栽による良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	設備システムの高効率化により、BEIm=0.52を達成した。
LR2 資源・マテリアル	OAフロアを使用し、部材の再利用可能性向上に寄与した。
LR3 敷地外環境	駐輪場、駐車場を十分に確保し、交通負荷抑制に配慮した。
その他	※特になし